

令和5年度
女性農林漁業者による経営改善等の
取組事例集



令和6年3月

山口県農林水産部農林水産政策課

はじめに

県では、平成30年度に創設した「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」により、平成30年度から「ステキ女子キャリアアップ講座」、令和2年度からは「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」を開催し、女性農林漁業者の経営力向上や働きやすい環境づくりを推進しています。また、各農林水産事務所及び下関農林事務所においては、管内の女性農林漁業者を対象に、地域女子会の開催やモデル経営体の育成など、女性農林漁業者の課題解決や経営発展に向けた取組を支援し、“女性が働きたくなる農林漁業”の実現を目指しています。

そこで、「女性が働きやすい経営体づくりセミナー」や各地域における取組など、今年度、本事業を活用し、女性農林漁業者が主体となって取り組んだ経営改善や働き方改革の成果等を事例集として取りまとめました。

整理収納等による農作業場や事務スペースの改善、販路開拓や新商品開発による販売力強化、地域女子会によるマルシェや研修会の開催など、経営改善のアイデアや働き方改革のポイントが詰め込まれた本事例集を、女性農林漁業者をはじめ、経営者や関係機関・団体、地域の皆様に御一読いただき、みんながいきいきと働き、活躍する環境づくりの参考となれば幸いです。



目 次

【岩国農林水産事務所管内】

- 働きやすい環境づくりから経営改善へ（岡崎農園 岡崎仁里）・・・ P 1
- ステキ女子マルシェで農業の魅力を発信（岩国地域農業女子会）・・・ P 3

【柳井農林水産事務所管内】

- リゾートホテル内に「農業女子コーナー」が開設されました！
（柳井・大島地域農業女子会）・・・ P 5
- 魅せる写真で未来を変える！スマホカメラで技ありの情報発信
（柳井・大島地域農業女子会）・・・ P 6

【周南農林水産事務所管内】

- 小さい目標（峰）から一歩ずつ（ふるた梨ぶどう園 古田優子）・・・ P 8
- 唐辛子で食卓に笑顔を！（fu do ku kan Bamboo 須田加弥子）・・・ P 10

【山口農林水産事務所管内】

- ハード面、ソフト面の改善で、より働きやすい職場環境に
（株式会社あぐりてらす阿知須 長尾智美）・・・ P 12
- 整理収納により安全で働きやすい職場環境に
（株式会社藤村農園 大木蛍、河内山典子、石田聡来）・・・ P 14

【美祢農林水産事務所管内】

- 中期計画づくりと改善の実施～わくわくする農業を目指して～
（ごろうのはたけ 今榮綾香）・・・ P 16
- 現状の見える化と家族での話し合いのきっかけづくり～楽しいこと、
うれしいこと、これから先のことを小さな改善の積み重ねで～
（西村ファーム 西村淑子）・・・ P 18

【下関農林事務所管内】

- 野村農園のマスコット「マシロくん」と一緒に情報発信♪
（野村農園 野村みゆき）・・・ P 20

【長門農林水産事務所管内】

- 集落営農法人の野菜栽培における作業負荷低減
（農事組合法人河原）・・・ P 22
- ながとステキ女子で商品開発「長州どり×長門ゆずきち」
（ながとステキ女子）・・・ P 24

【萩農林水産事務所管内】

- 「ステキ女子マルシェ」でメンバーの個性と農産物をPR
（阿武萩地域ステキ女子会）・・・ P 26
- 下関・阿武萩地域合同農林漁業女子会で新たな出会い、新たな学び
（阿武萩地域ステキ女子会）・・・ P 28

働きやすい環境づくりから経営改善へ

- 屋号・法人名等 岡崎農園
- 氏名 岡崎仁里
- 所在地 岩国市由宇町
- 生産品目 トマト、キュウリ
- 就農年 令和4年
- 取り組みのきっかけ



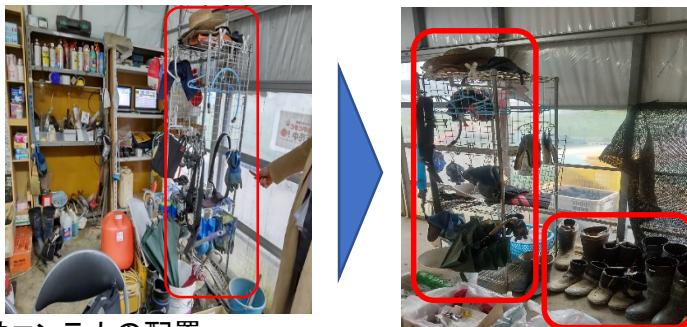
- ・ 令和4年の春、岩国市由宇町でトマト栽培を営む夫との結婚を機に、農業経営に携わることになりました。その中で、家族やご近所のパートさんが、もっと働きやすい農作業環境に改善できないかと考え、「やまぐち農林漁業ステキ女子」たちが実践した農作業場の改善事例を学び、実践することになりました。

○取り組みの内容

- ・ すぐに使わない資材が作業場にたくさんあることや、置き場所が決まっていない資材、作業動線の流れが改善できないかと考えました。
- ・ そこで、県の「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」を活用して、整理収納アドバイザーを派遣してもらい、夫妻で農作業場を一緒に点検しながら改善に向けて取り組みました。なお、アドバイザーの派遣は、農閑期の3月、8月、12月の計3回活用しました。

ア 出入口の整理

- ・ 作業場の出入口に、履物があふれて靴を探す手間がかかっていたことやハンガーラックを活かしきれっていませんでした。そこで、上着や帽子、靴を取りやすいように位置に入れ替え、置き場所をまとめました。



イ 段ボールやコンテナの配置

- ・ 農産物をご近所や知り合いに渡す時は中古の段ボールを使っていますが、出荷用の新しい段ボールと混在して取り出しにくい状況でした。また、トマトの衛生管理上、改善すべき点でした。
- ・ そこで、出荷用の段ボールの場所を作り、作業の流れを考え、コンテナと段ボールの位置を入れ替えました。
- ・ 段ボールの 카테고리を整理し、関係する資材の置き場所を作りました。



ウ 事務スペースづくりと結露対策

- ・ 直売用のラベルの在庫数が把握しにくく、封筒から取り出しにくいことや、机を荷物置きにしていたため事務スペースが十分ではありませんでした。
- ・ そこで、ウォールポケットに直売用のラベルを入れて、机で作業ができるスペースを作りました。また、市場出荷用の番号札をラミネート加工して、ウォールポケットに入れました。
- ・ ホワイトボードも使える様に位置を変え、なくしやすい鉛筆やハサミは、置き場所が誰でもわかるように目印の色テープで差別化しました。机の下もキャスター付きのワゴンで、袋やテープの収納スペースを作り、農園に買いに来るお客さんへ渡す袋を、すぐに取り出せるように壁にかけて設置しました。
- ・ 作業場内の壁の結露で書類が濡れるため、内側にハウス用のビニールを骨に挟んで結露が外に流れるように内張りを張って工夫しました。



○効果

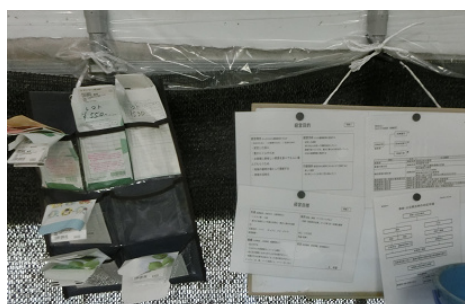
- ・ この取り組みを通じて、農作業場内のレイアウトがガラッと変わることによって、改善の効果を実感できました。
- ・ また、GAP 取得に向けた準備をしている中で、整理収納の手法を活かすことができました。今後も農作業環境の改善に取り組めます。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・ 農作業場の環境改善と共に、経営講座等を受講し、正規雇用や法人化について専門家のアドバイスをいただきながら検討しています。経営講座を機会に経営目標を作り、GAP を想定した役割分担を行いました。今後は、家族経営協定も取り入れながら、夫妻で経営改善に取り組んでいきます。



ファームサイド株式会社
佐川先生の現地訪問



作成した経営目標や GAP を想定した
役割分担を農作業場内に掲示

ステキ女子マルシェで農業の魅力を発信

○女子会名 岩国地域農業女子会

(参加者 19名)

○所在地 岩国市



○取り組みのきっかけ

・岩国地域では、令和2年度からステキ女子が実行委員として、ステキ女子の存在や商品を消費者に知ってもらい農業への理解を深める機会を作るためにマルシェを開催しています。今年度は、やまぐち農林漁業ステキ女子応援団である「山口ダイハツ販売会社(以下「ダイハツ」という)」とマルシェに取り組むこととしました。

○取り組みの内容

(1)山口ダイハツ販売株式会社との話し合い

・山口ダイハツ販売株式会社(以下、「ダイハツ」という。)は、やまぐち農林漁業ステキ女子応援団に登録し、昨年度、下関や周南でステキ女子と一緒にマルシェに取り組んでいました。

・そこで、岩国地域農業女子会では、新たな発信の場としてダイハツと連携したマルシェの開催について話し合いを行い、ダイハツに提案することになりました。

・開催についての話し合いでは、店舗が交通量の多い国道に面していることや集客力、出店場所や駐車場の確保、集客に係る課題について検討しました。



車両販売ができる「Nibako」の見学

(2)開催に向けた企画づくり

・岩国地域農業女子会メンバーで構成する「岩国ステキ女子マルシェ実行委員会」で、出店者の募集と共に、集客のためのアイデア出しを行いました。

①会場になる岩国店にマルシェのポスターやチラシをおいてユーザーにPRする

②ダイハツの車両とコラボした可愛いお店づくりをする

③岩国のご当地キャラクターを呼んでグリーティングタイムを作り、子どもさんやファンにPRする

④お買い物スタンプラリーとして3か所以上で購入したら、記念品をプレゼントする

⑤「母の日」にちなんだ商品づくりをする(例:母の日セット、カーネーションのシールを貼る等)

⑥岩国市へ市の公式 LINE での告知をお願いする

⑦ステキ女子から知り合いへ口コミや SNS で発信をする

(3)来場者へのアンケートの実施

・来場者の反応を聞き、次回の参考にするために、来場者アンケートを行うこととしました。来場者アンケートは、回答してもらいやすい様にお買い物スタンプラリーに参加した方へお願いすることとしました。

・マルシェの時期に販売品目がないステキ女子にサポーターをお願いして、アンケートやスタンプリーの受付を行いました。

○効果

- ・初めての場所での開催でしたが、課題であった集客の確保は、ダイハツのDMや、ご当地キャラクターのファン、岩国市の公式LINE、そして口コミ等で、約500人以上が来場しました。
- ・出店者は、自社の商品やこだわりを積極的にPRし、ステキ女子の農産物や商品を知らない方にも販売促進ができました。また、出店者は、新商品の試験販売を行って、お客さんの反応を見ることができました。



フライヤーでマルシェをPR



車輛を活かした店づくり



ご当地キャラクターのグリーティング



キッチンカーでの販売に初挑戦！



サポーター役のステキ女子が受付でアンケート等を実施



「母の日」にちなんだ商品づくり

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

<実行委員>

- ・ダイハツの社員さんには真摯に対応いただき感謝です。当日も、駐車場の誘導やテント資材の貸し出し等協力いただき、大変心強かったです。
- ・出店をしないステキ女子も運営のサポートにあたるなど、岩国ならではのつながりが嬉しかったです。

<出店者>

- ・準備は大変でしたが、当日になると、いつもの仕事から解放されて、他の出店者やお客さんとの会話が楽しかったです。
- ・お客さんから、岩国に若い女性農業者がいることを驚かれたり、すごく盛り上がっている雰囲気がいよとの声をもらったりすると、次もがんばりたくなります！

周防大島町のリゾートホテルに「農業女子コーナー」が開設されました！

○屋号・法人名等

○氏名 柳井・大島地域農業女子会
(参加者数 8名)

○所在地 大島郡周防大島町

○取り組みのきっかけ

令和5年3月に「やまぐち農林漁業ステキ女子応援団(以下、応援団)」に登録された地元リゾートホテル「マリッサリゾート サザンセット周防大島」とのコラボ活動に向け、ホテル担当者や関係機関担当者を交えたコラボ活動検討会を行いました。



○取り組みの内容

検討会では、コラボ活動による新たな取組のアイデア出しをするため、女子会メンバー、ホテル担当者、町担当者が2つのグループに分かれて、それぞれグループトークによるブレインストーミングを行いました。

出された多くの意見の中から「取り組んでみたいこと」や「すぐに取り組めそうなこと」を選び、さらに意見交換を進めて、最終的には、今後、ホテルと連携した商品の販売や情報発信を希望するメンバーで、まずは7月2日のホテルのオープンに合わせて、ホテル内に「農業女子コーナー」を設置し、商品の販売や情報発信等のPRを開始することになりました。



○効果

令和5年7月2日に片添ヶ浜海浜公園内にホテルがオープンし、館内ショップの一角に待望の「農業女子コーナー」が開設されました。女子会メンバー6名(6経営体)の17商品の販売が開始され、宿泊客に好評を博しています。

また、メンバーからの提案により、ホテル内のレストランでは、参加メンバーが生産する農産物や山口県産牛乳が使用されることになりました。新たな売り場ができたことで、メンバーそれぞれの売上やモチベーションの向上につながっています。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

今後も、このような応援団等とのコラボ活動を模索していきたいと考えています。

魅せる写真で未来を変える！スマホカメラで技ありの情報発信

○屋号・法人名等

○氏名 柳井・大島地域農業女子会
(参加者数 5名)

○所在地 柳井市、周防大島町、田布施町



○取り組みのきっかけ

柳井・大島地域農業女子会(以下、女子会)では、令和5年5月に活動検討会を開催し、昨年度の取組成果を共有し、今年度の取組について検討しました。女子会ではこれまで地元マルシェへの参加や、有志による東京マルシェへの出店に取り組んできており、意見交換を行う中で、メンバーから「今年度は SNS の活用方法や写真の撮り方など、情報発信に関する内容を学んで、イベント販売等の今後の取組にいかしたい」との声がありました。

そこで10月に、プロフォトグラファーとして県内外で広く活躍されているフォト・オフィス・マザーリーフ 代表 渡辺美沙さんをお招きし、商品や農園の魅力など、自身が伝えたい情報を効果的に伝える手法として、身近なスマートフォンを使った写真の撮影方法とその活用について学ぶことにしました。

○取り組みの内容

(1)課題の共有

最初に、自己紹介で自身の経営とあわせて今回の講座で学びたいことを話し、日頃の写真撮影に関する悩みや疑問を講師や参加メンバーと共有しました。

「見ているままの自然で美しい色を写真に残すにはどうしたらいいか?」「写真の構図や商品の見せ方を学びたい」「農産物や加工品を上手に撮り、伝える方法を学びたい」「いい写真が撮れるようになったら、今後は SNS を使った情報発信にも挑戦したい」などの声がありました。

(2)講義

テーマ 「感動！商品・農園の魅力を伝える写真講座」

目標 ①伝えたいターゲットが明確になる ②自分の未来、目標が明確になる
③携帯カメラで素敵な写真が撮れるようになる ④写真撮影に対して前向きになれる

ア)ブランディングと写真の効果

講義では、効果的な情報発信をするためには、まずは「自分の商品への想いを、目に見える形にして、伝え続けること＝ブランディング」が大切であることを学びました。

わずか0.2秒で思いが伝わる素敵な「写真」は SNS 等の情報発信には必須であること、発信を見ている人の心を動かせば商品が売れることなどから、情報発信における「写真」の重要性を感じました。

また、どのような人を買ってもらいたいのか(ペル



ソナ)、自分の商品でお客様にどうなってもらいたいのかを明確に持っていること、そのためにもどのような写真を撮って発信するかが大切だということや、人は人に興味を持つため写真に人物を取り入れること、相手と目が合うような「目線のある写真」「魅せる写真」で発信力をアップすることが効果的であることを学ぶことができました。

イ) スマホカメラ講座

「魅せる写真」で発信力を向上させるため、写真を好みの明るさにする露出補正の方法や、レンズの特性と活かし方などスマホカメラの機能と、写真撮影と光の関係性を学びました。こんなに小さなスマートフォンのカメラですが、いろいろな機能や特徴を備えていることを知り、参加メンバーからは驚きの声が上がりました。



また、小物を使った撮影のテクニックや、構図の決め方、編集機能、編集アプリなど、写真の撮影や編集に関する基本的な知識と技術を学ぶことができました。

(3)実践

テーマ 「魅力を伝える写真の撮影方法」

実践では講義で学んだことを活かし、自然光とレフ板、撮影用の小物等を使って、一人ずつ講師の指導を受けながら、それぞれ持ち寄った自分の商品などを撮影しました。

○効 果

参加メンバーそれぞれが納得できる写真を撮ることができ、当初の目的を達成できました。



○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

講座終了後には、「とても参考になった」「参加して良かった」「これからどんどん情報発信していきたい」「今日のInstagramに載せます！」などの感想がありました。

女性農業者が農業や暮らしを営みながら、それぞれの地域で自分らしくいきいきと活躍していくためには、わかりあい支え合える仲間や、応援してくれる地域の方々、お客様とより良い関係づくりに加え、それぞれの経営体において自分自身の意欲や興味がある部門で楽しみながら、能力や役割を十分に発揮できることがとても大切です。

今後もメンバーの「学びたいこと」「取り組みたいこと」を大切にしながら、それぞれの経営にプラスとなるような研修を実施していきたいと思っております。

小さい目標（峰）から一歩ずつ

～直売コーナーのリニューアルと販売形態の見直しで女性が働きやすい職場に！～

- 屋号・法人名等 ふるた梨ぶどう園
- 氏名 古田優子
- 所在地 周南市
- 生産品目 梨、ぶどう
- 就農年 2011年



○取り組みのきっかけ

令和4年度から経営改善に取り組み、2年目を迎えた。

果樹経営の中で、直売コーナーの老朽化や、もぎ取りなど繁忙期の作業効率が悪いことなどの問題を感じていたので、令和5年度は、女性が働きやすく、また女性のお客様に喜ばれるお店づくりに取り組むこととした。

○主な取り組みの内容

(1) 直売コーナー内装のリニューアル

① 表示の改善

「お会計」「地方発送コーナー」「梨狩り受付」と大きな表示を設置し、お客様が「どこでなにができるか？」が伝わるようにした。

【ビフォー】



【アフター】



② 色の統一

汚れた壁はロールカーテンなどで隠し、陳列棚を濃い茶色で統一した。

【ビフォー】



【アフター】



③ 展示場所を工夫

加工品やぶどう専用の展示機を設置した。

【ビフォー】



【アフター】



④ ドッグランの設営

ワンちゃんと共に来られるお客様のために、園の一画にドッグランを新たに設営した。

(2) 規格外商品等の販売力の強化

① 規格外の梨の販売形態の見直し

規格外の梨を重量で販売していたが、あらかじめ1,000円カゴを作って設置した。

② 粒ぶどうの販売形態の見直し

規格外の粒ぶどうを、透明スタンドパックに詰めて販売した。



梨の1,000円カゴ



粒ぶどう透明スタンドパック

○効果

- ・大きな表示の設置で、お客様が動きやすくなり、作業する者も無駄な動きが少なくなった。
- ・展示の表示や色を統一したことで商品が映え、女性客に魅力のある売り場になった。また、ワンちゃん連れのお客様にドッグランが好評だった。
- ・梨の1,000円かごがヒット！当園で800カゴ＋組合直売所700カゴ＝1500カゴを売り上げた。また、ぶどうのスタンドパックがヒットし道の駅で1200袋完売したことで全体の売り上げが増加し、ボーナスを2年連続出すことができた。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

経営改善を登山に見立て頂上へ歩くという考えで取り組んだ。改善発案30件⇒実施数20件、改善した結果が数字に表れた。

経営理念である「大きく底味のある果物で笑顔を届ける、梨離れを食い止める、選ばれ続ける農園になること」を目標に、経営改善を続けていきたい。

唐辛子で食卓に笑顔を！

～イベント出展や調味料キット、レシピブックを作って売り上げアップにつなげたい！～

- 屋号・法人名等 fu do ku kan Bamboo
- 氏名 須田加弥子
- 所在地 周南市須金
- 生産品目 唐辛子、唐辛子加工品
- 就農年 2013年



○取り組みのきっかけ

唐辛子加工品の主力商品はグリーンカレーペーストであるが、既存の店舗とオンライン販売、県内イベント出展などの販路だけでは売上高に限界を感じていた。

やまぐち農林漁業ステキ女子に登録し「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」に参加したことから、ステキ女子活躍推進補助金を導入して、経営改善に取り組むこととなった。

○取り組みの内容

新たな顧客層の開拓と売り上げの増加をめざし、

- ① 東京でのイベント出展でオーガニックや国産材料などのこだわりを持った都市部の女性客へ直接商品をPRし、販売した。



- ② ミニサイズ、唐辛子を使った調味料キットを開発し、オンラインショップやイベントのラインナップ強化を図った。



③ 女性客の目に留まるような加工品リーフレットとミニレシピブックを製作した。



○効 果

- ① 東京でのイベント出展で、購買層は圧倒的に女性で、辛いものに対する女性客の市場は確実に存在していることがわかった。
- ② 女性客の目線、指向に合わせた商品ラインアップができ、新たな顧客開拓に役立った。
- ③ 女性目線で製作したレシピブックやリーフレットなど、おしゃれなブランディングをすることで、今後の女性客層の獲得へ活用できる。また、レシピブックの利用について、SNSでの反響も出始めた。
- ④ 顧客へのレシピ提案は、接客時に活用することで、購買につながることも多かった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

都市部の女性は忙しいので、手軽に食べられるものとして、柚子胡椒や唐辛子粉の調味料の需要があることやカレーもレトルトを常食される方が多いことがわかった。

手軽なものを求める一定層以外に、オーガニック志向、安全な食を手づくりで食べたい、というこだわりの女性も多く見られ、来季にはプロモーションをしっかりとこのようなお客様に販売していける手応えを感じた。

今回製作した資料やラベル等を活用し、来季から新たな顧客層の開拓と売り上げ増加をめざしていく。

ハード面、ソフト面の改善で、より働きやすい職場環境に

- 屋号・法人名等 株式会社あぐりてらす阿知須
- 氏名 長尾智美(代表取締役、加工事業部長)
- 所在地 山口市
- 生産品目 水稲、麦、サトイモ、ダイコン、ニンニク
加工品(寒漬、かき餅、ピクルス)
- 就農年 平成24年



○経営改善のきっかけ

経営規模が拡大する中、従業員の人数や、農機具、農作業道具が増える中、働きやすい環境づくりが課題であった。

令和4年度から「女性が働きやすい農業経営体づくりセミナー」を受講し、経営改善の事例や、講師のアドバイスにより、整理収納やホワイトボードの設置による作業スケジュールの見える化等、経営改善に取り組んできた。

今年度も引き続き、セミナーを受講しながら経営改善に取り組むこととした。



令和4年度に取り組んだ作業スケジュールの見える化

○経営改善の取組内容

(1) 新たな休憩室、事務所の設置

従業員が増え、既存の休憩室と事務所ではスペースが不十分であり、自家用車で休憩を取る従業員もいた。また、

休憩室は男女兼用であったが、女性の雇用も増えたため、今後の事業拡大も視野に入れ、休憩室や事務所を設置した。

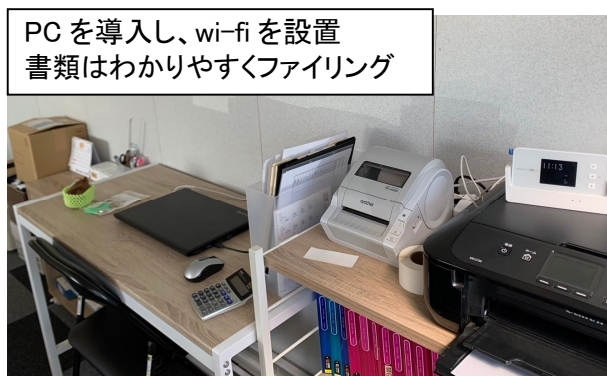
(2) 会社用 PC・wi-fiの導入

会社用のパソコンが1台のみで、作業が混み合うことがあった。

また、スマートフォンを使って連絡調整を行っているが、ネットワーク環境がなかったため、wi-fiを設置した。



新たに整備した休憩室



PCを導入し、wi-fiを設置
書類はわかりやすくファイリング

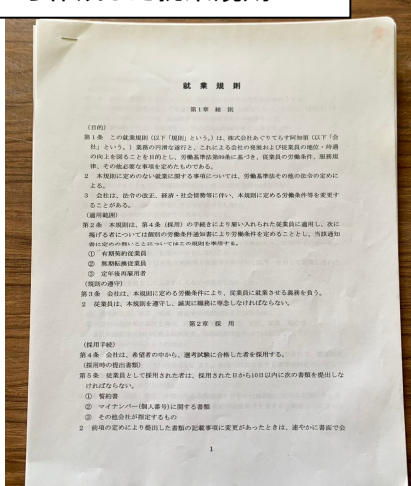
(3) 社員の誓約書・就業規則の作成

就業規則は、2年前に法人化した時に取締役2名で作成したものを使用していたが、従業員が増えてきたため、専門家(社会保険労務士)に相談し、自社の労働環境に合った内容に作成し直し直した。

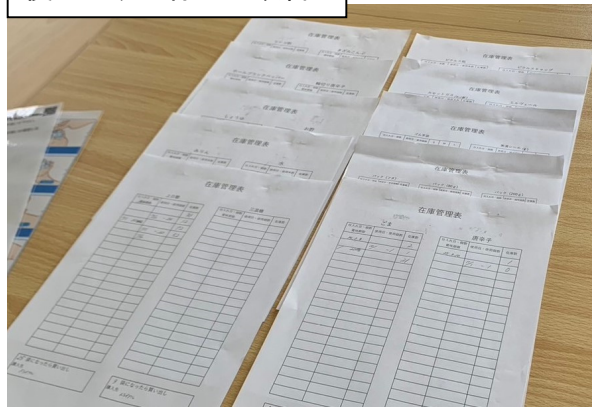
(4) 在庫管理表の見直し

加工品の種類が増え、使用する材料も増えたため、今までの物では使い勝手が悪いので、一括表示の新たな表を作成した。

自社の労働環境を考えながら作成した就業規則



在庫管理表を見直し、使いやすい様式に改善



○経営改善の取組効果

- ・休憩室、事務室を設置し、従業員が安心して休憩を取れて、ミーティングもできるスペースを確保できた。また、増えてきた書類を整理収納し、書類の出し入れがスムーズになった。
- ・wi-fi 環境が整い、連絡調整がスムーズでノンストレスに行える環境が整った。
- ・専門家からの助言をもとに、就業規則を見直すことができた。
- ・在庫管理表について、従業員の声も聞きながら見直し、誰もが使いやすくなった。

○今後の経営改善への取組意向

引き続き、どんな環境だと働きやすいか、従業員からのリクエストも聞きながら、従業員が働き続けたいと思える環境を整え、雇用を確保していきたい。

これからもアイデアシートを活用し、自分自身と会社の改善を行っていきたい。

整理収納により安全で働きやすい職場環境に

- 屋号・法人名等 株式会社藤村農園
○氏名 大木蛍、河内山典子、石田聡来
○所在地 山口市
○生産品目 露地野菜(キャベツ、ブロッコリー、
サツマイモ、タマネギ等 12品目)
野菜苗(タマネギ、サツマイモ)
○就農年 平成31年、令和元年、令和5年



○経営改善のきっかけ

経営規模が拡大し、従業員の人数や、農機具、農作業道具が増える中、整理収納の必要性を感じ、GAPのような取組を意識するようになった。

そこで、専門家(整理収納アドバイザー)の助言を受けながら、整理収納を実施し、働きやすい環境づくりに取り組んだ。

○経営改善の取組内容

働きやすい職場環境づくりの一環で、県の「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」を活用して派遣いただいた農山漁村女性活躍支援アドバイザー(整理収納アドバイザー)の助言を受けながら、農業倉庫の一部、休憩室、事務所の整理収納を行った。

①現状確認

初めに農業倉庫、休憩室、事務所の現状を確認し、困っていることや悩みを出し合った。

②整理収納の実践

アドバイザーから助言を受けながら、農業倉庫、休憩室、事務所の整理収納を行った。

農業倉庫の一部

- ・動線を確保する配置に変更した。
- ・道具やモノを要るもの、要らないものに分類し、道具棚や農薬保管場所の整理収納が完成した状態の写真を撮って掲示した。

休憩室

- ・要るもの、要らないものに分類し、場所を決めて収納。モノの住所を決めて、誰でもわかるように、ラベルを貼りつけた。
- ・テーブルの上は、ものを置くのは1つの箱の中だけに決めた。
- ・整理収納が状態をキープするため、5分でいいので、掃除当番、掃除する曜日を定めることとした。
- ・ソファの上に上着等を置きがちだが、休憩所の壁は鉄製でマグネットを使用可能なので、マグネット付きのフックを設置し、フックに服をかけるようにした。

事務室

- ・郵便物の整理、書類置き場の設置、廃棄書類の整理、使用頻度が高いものから置き場を決めて配置換えを行った。
- ・請求書、領収書、見積書等、分類して分類タグを付けたファイルボックスに収納した。新しいものから右から入れるルールとした。郵送書類は開封し、書類と封筒をクリアファイルに入れてから、日付順にファイルボックスに収納した。ファイルボックスはダブルクリップで連結することで、倒れにくく、安定して設置できた。
- ・伝票は、年度毎に段ボールに入れて保管期間を記入し、保管期限がきたら処分することとした。
- ・チラシは、定期的に見直して不要なものは捨てることとした。
- ・PC内のデータは、フォルダを作って整理することとした。ファイル名ははじめに日付を付けると自動的に並ぶので、それをフォルダに分類して入れていくルールで実践してみることにした。



ダブルクリップで隣同士のファイルボックスを繋ぐと、倒れにくく、安定！



マグネット付きのフックで、上着も簡単に収納！

○経営改善の取組効果

なかなか着手できなかった整理整頓について、現状を確認し、ルールを決めながら作業を進めることができた。

不要なものを除去することで、動線や収納スペースを確保でき、農作業安全面でも改善が見られた。

整理収納のルールを決めることにより、書類や道具を探す時間のロスがなくなり、ストレスの軽減に繋がった。

引き続き、働きやすい職場改善に取り組んでいきたい。

中期計画づくりと改善の実施～わくわくする農業を目指して～

- 屋号・法人名等 ごろうのはたけ
- 氏名 今榮綾香
- 所在地 山陽小野田市埴生
- 生産品目 イチゴ、ミニトマト、加工品
- 就農年 平成30年



○取り組みのきっかけ

夫婦で就農し、5年目。事業拡大の意向があり、やりたいことはたくさんあるが、一昨年に、第一子を出産したこともあり、どのように進めていけば良いか悩みを抱えている状況であった。そこで、今回、どこを目指し、どのように進めていくか、中期計画を作成し、併せて、できるところから、改善の取組を実施された。

○取り組みの内容と効果等

(1) 中期計画づくり

経営理念や経営方針等を検討することで、何のために農業経営をするのか、どこを目指すのか整理できた。スタッフや消費者、関係機関等に農園を理解してもらい指針としても活用していく。また、4つの課題(①所得向上に向けた認知度アップ②生産技術の向上③経営状況の整理と今後の計画策定④規模拡大、新規事業に向けた農地確保、人手確保)が整理でき、具体的に、5年後、10年後どのようになっていたいか、そのために何が必要かについて行動計画が作成できた。

(2) 改善の取組

・消費者ニーズの把握、認知度アップの取組

課題①「所得向上に向けた認知度アップ」の一環として、商品に対する評価の把握、認知度アップを目的に、県内外の販売店舗やマルシェ等で試食販売を実施した。また、効果的に実施するために、販売促進資材(商品ののぼりやユニフォーム)を作成した。消費者から直接意見を聞くことで、モチベーションアップや商品の改善意欲につながった。商品ののぼりは、遠くからでも何を販売しているかわかるようになり、興味をもってきてくれる人が増える等、販売促進資材を活用することで、効果的に、消費者等へ商品を知ってもらう機会になった。

・ネット販売(BASE)の開設

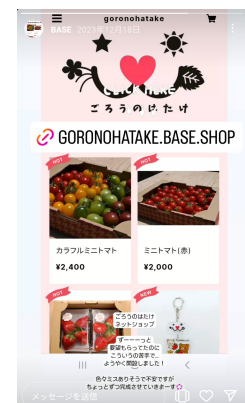
販路拡大を視野に入れ、ネット販売を開始した。

・環境制御装置の効果的な活用

課題②の「生産技術の向上」の一環として、ハウスに導入した環境制御装置を活用し、モニタリングデータを見ながら、最適な栽培環境に制御することで、品質の向上と暖房燃料費の削減につながった。



作成した商品ののぼり



ネット販売(BASE)開設

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

農園として、目指すところ(中期計画、経営理念等)が整理できたので、多くの人に理解してもらえるようにしていきたい。また、いろいろやりたいことがあるので、計画に基づき、一歩ずつ、優先順位をつけて進めていきたい。わくわくする農業を目指して、自分らしく、面白く、前進していきたい。

現状の見える化と家族での話し合いのきっかけづくり

～楽しいこと、うれしいこと、これから先のことを小さな改善の積み重ねで～

- 屋号・法人名等 西村ファーム
- 氏名 西村淑子
- 所在地 宇部市西岐波
- 生産品目 キャベツ、ブロッコリー、水稲、ソラマメ種子、加工等
- 就農年 平成8年



○取り組みのきっかけ

淑子氏は、農家に嫁ぎ、義母と夫(会社員のため休日のみ)とキャベツ、ブロッコリー等園芸品目を中心に取り組んでいる。義母や部会員の高齢化により、次の世代の淑子氏に、作業が集中し、負担が増加している。栽培面積と労働力のバランスだけでなく、資材の高騰により経費の見直しも必要になっているが、家族は、現状維持志向が強く、話し合いの場がもてないという状況であった。また、農家カフェを開きたいという夢があるが、理解が得づらく、実現に向け行動できていない状況があった。そこで、現状の整理(見える化)と、中期計画づくりを通じて、家族で話し合うきっかけづくりに取り組んだ。

○取り組みの内容と効果等

(1) 現状の整理(見える化)

・作業記録

作業内容、作業時間は Google フォームで記入している。現場でスマホから入力できるため、記載漏れが無くなった。パソコンで、簡単に集計や管理ができるため、必要な時に、いつでも把握できるようになり、印刷し、家族でも共有しやすくなった。品目ごとやほ場ごとの作業時間が把握できるようになり、自分の時給も加味して、労働力にあった適正な栽培面積を検討することができるようになった。

・品目別マニュアル作成

栽培品目別に、年間を通じた作業内容を整理することで、だれでもできる体制づくりや次年度の作業スケジュールを立てやすくなった。

・ほ場地図の作成

ほ場が分散しており、移動時間がかかなりのロスとなっている。それぞれの頭にあるものを見る化するため、どこのほ場で何が栽培されているか、ほ場のくせ(排水状況等)なども一目でわかるよう一枚の地図に整理した。

・作業内容の見える化

作業前の声掛けや当日の作業内容をホワイトボードに記入することで、お互いの作業内容が共有できるようになった。



整理された作業記録、マニュアル、ほ場地図等

・資材の見える化

過剰な在庫を抱えないために、資材の一覧表を作成した。

(2) 中期計画づくり

経営理念、経営方針等を検討することで、何のために農業をしているのか、どこを目指すのか、自分自身や農園の強み、弱みが整理できた。5年後、10年後の目標やそれに向けた計画を立てることで、何が必要で、今から何に取り組めば良いか整理できた。中期計画づくりを通じて、家族での話し合いの場がもて、今後の話し合いのきっかけになった。

(3) その他(作業環境の整備)

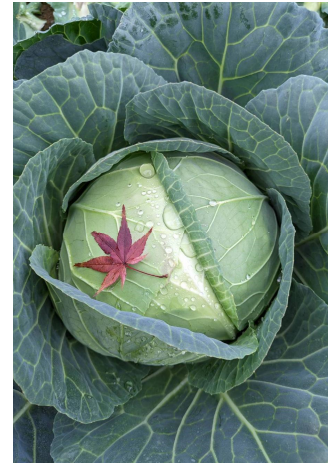
事務作業スペースを確保することで、事務作業の効率化につながった。モノのアドレスを明確にし、作業に必要なところに必要な数量だけ設置することで、探す時間ロスが減少する等、作業効率の改善につながった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

今回は、現状の整理(見える化)を中心に、改善の発案数86件のうち65件を実施した。小さな改善が大半だったが、自分の中では、確実に、働きやすい体制づくりにつながったと感じる。また、先々の経営改善のヒントにつながるものが多く発見できた。この取組を通じて、家族との共有だけでなく、自分自身の課題や強み、弱みの整理にもつながった。今後も改善に取り組む、話し合いの機会を増やし、家族それぞれが活躍できる農園にしていきたい。そして、自分も夢の実現に向けて進めていきたい。

～楽しいこと、うれしいこと、

これから先のことを小さな改善の積み重ねで～



野村農園のマスコット「マシロくん」と一緒に情報発信♪

- 屋号 野村農園
- 氏名 野村みゆき
- 所在地 下関市
- 生産品目 オリエンタルユリ、スカシユリ、トルコギキョウ、水稻



○就農年 平成 28 年

○取り組みのきっかけ

R4 年度に、スマートフォン1つで出来る動画の撮影や編集方法を女子会で学び、Instagramでの情報発信に活用していました。

そんな時に阿武萩地域と下関地域合同の農林漁業女子会の視察を引き受けることになりました。リース作り体験の講師も依頼され、15名を1度に教えることに！1人1人ペースが異なると考え、進み具合がバラバラになっても途中でやり方を見ることが出来るよう、リース作りの説明動画を作成しました。

○取り組みの内容

リース作りの過程をスマートフォンで撮影、編集しました。

開設していた公式ラインで、「リース」とキーワードを打ち込むと、動画が自動配信され、見られるように設定しました。(youtube で方法を調べながら、女子会までに間に合うよう試行錯誤しました！)

公式ラインの QR コードを野村農園に準備し、スマートフォンで読み込んですぐ登録できるようにしました。

○効果

- ◇ リース作り参加者感想:分かるまで動画でリピート再生出来てよかったです！
- ◇ 「公式ラインで、こんなことができるんだ!？」と公式ラインに興味を持ってもらえるきっかけになりました。
- ◇ 野村農園来園者と「公式ライン」を通じて直接繋がれるようになりました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

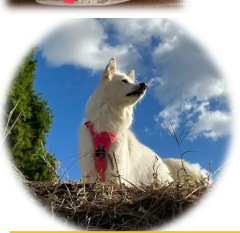
カメラを固定する道具がなかったため、撮影は夫に手伝ってもらいました。編集アプリは無料のCPCAT(R4の農林漁業女子会のワークショップで講師がおススメされたもの。使いやすい。)を使用しました。やっと出来上がった動画を公式ラインにアップしようとしたところ、時間が長すぎるとダメなことが分かって3分割にしたり、キーワードの打ち込みで動画が配信される設定がうまくいかず、youtube で方法を調べたりと、思いのほか時間がかかりました。リース作り体験までに間に合わせようと思い、やり遂げることが出来ました。講師の引き受けは、SNS 活用を更に進める良いきっかけになりました。

公式ラインでは、野村農園のマスコット「マシロくん」と一緒に、野村農園のイベントを企画・発信しています。公式ラインアカウントはマルシェや直接出あった人に紹介しています。野村農園を身近に感じていただいて、ぜひ足を運んでいただきたいです。時々クーポンも配信しています。

また、異業種の人とコラボレーションしたイベントの開催や定期的な直売などもしていきたいと思っています。



リース作り体験



野村農園のマスコット「マシロ」君



こんにちは。マシロだよ🐾

もうすぐバレンタインデーだね❤️みんなフラワーバレンタインって知ってる？

世界では男性が大切な女性にお花を贈る習慣があるんだって🌸ステキだね🌸

そうだ！ボクもお友達になってくれたみんなにお花1本プレゼントクーポンを贈るよ❤️

2/11(日)～2/14(水)の期間中にボクに会いに来てね❤️🐾

バレンタインクーポン
有効期限: 2024/02/14

ある日の公式ライン配信

集落営農法人の野菜栽培における作業負荷低減

- 屋号・法人名等 農事組合法人河原
○氏名 野菜担当 N・N※
※氏名イニシャル
○所在地 長門市
○生産品目 タマネギ、キャベツ
○就農年 平成31年



○取り組みのきっかけ

(農)河原は水稲・麦・大豆・飼料作物・野菜を生産していて、野菜(タマネギ・キャベツ)の定植、追肥、収穫、調製などの作業は主に6名の女性(30代～80代)が行っています。

定植作業や調製作業は身体への負担が大きく、作業改善ができないかと考え、長門農林水産事務所に相談し、みんなで改善に取り組みました。

○取り組みの内容

【タマネギの調製作業の負荷改善】

・作業位置のかさ上げ

皮剥き・選別作業のコンテナの位置をパレットでかさ上げして、作業中の姿勢を、かがみこむ体勢から背筋を伸ばせる体勢へと改善しました。

・作業イスのクッションの利用

腰の痛みの軽減のため、作業イスとしているコンテナに低反発クッションを敷きました。

・調製用ハサミの変更

たくさんのタマネギの葉と根をハサミで切る作業は、長時間行くと手が痛くなっていました。手の痛みの軽減のため、穴あきタイプの持ち手から開放タイプの持ち手のハサミへ変更しました。



改善したタマネギの調製作業場



開放タイプの持ち手のハサミ

【キャベツの定植作業の負荷改善】

・健康運動指導士さんによる作業負荷軽減の講習

キャベツの定植は、苗の活着率を上げるため、機械でなく手作業で行っています。長時間、低い姿勢となるので腰への負担が大きく、腰痛に悩まされていました。

健康運動指導士の方に作業の姿勢を見てもらい、作業姿勢の改善方法と、作業後に行うストレッチを教えてくださいました。

○効 果

・道具の改善や姿勢の改善により、腰痛や手の痛みが軽くなり、長時間作業の負担感が軽減しました。

・作業後のストレッチとして、作業中に起こっている筋肉のこわばりを解消する方法や、疲れにくくするための筋肉トレーニングの方法を教えてください、これから先も長く農作業ができる身体づくりについて勉強できました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

法人事務所のトイレは、男女共用の汲み取り式の和式トイレで、女性たちはできるだけ使いたくないので、真夏でも朝から水分を摂らないようにして我慢していました。また着替えをする場所がなく、汚れたまま一度自宅に戻らなければなりませんでした。

代表理事にトイレや更衣室について相談し、令和5年度女性の就農環境改善支援事業を活用して、男女別トイレや女性更衣室がある新しい法人事務所が建設されることになりました。

今後も、働きやすい環境になるよう、みんなで考えていきたいです。

ながとステキ女子で商品開発「長州どり×長門ゆずきち」

○屋号・法人名等

○氏名 ながとステキ女子
(商品開発に関わったメンバー:11名)

○所在地 長門市



○取り組みのきっかけ

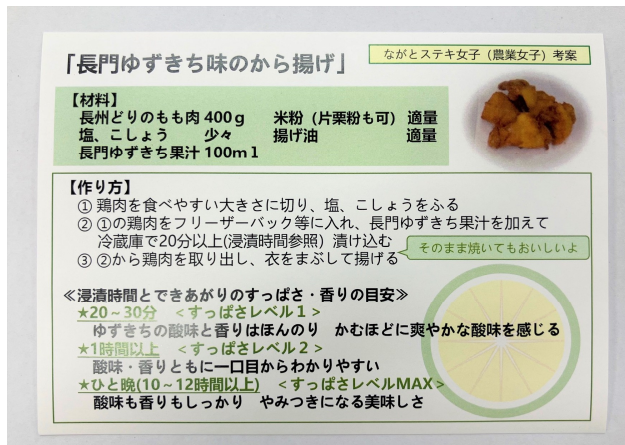
長門市は養鶏業が盛んで、ながとステキ女子のメンバーにも養鶏業経営者や経営者の妻がいます。令和2年度から、ながとステキ女子の女子会として、長門市の特産品である長州どりと長門ゆずきちを使った商品開発をしようと、レシピづくりを行ってきました。

○取り組みの内容

【令和2年度～令和3年度】

ゆずきちを使ったオリジナルのから揚げ粉の開発に向けてステキ女子会で試作を重ねました。しかし、ゆずきち果汁をパウダー化するとコストがかかりすぎるため商品化を断念・・・

ゆずきち果汁に鶏肉を漬け込む、という方向に変えて、から揚げレシピを作成し、「ながとステキ女子考案レシピ」として長門料飲組合に提案しました。



レシピカード

※長門農林水産事務所 HP でも見られます

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/118/243805.html>



現在は消費者向けに小売店の

ゆずきち果汁売り場でも配布

【令和4年度～令和5年度】

ゆずきち果汁に漬け込んだ鶏肉を商品化しよう、と気持ちを切り替え、6次産業化支援施設「ながとラボ」とコラボし試作してもらい、それを女子会で試食・アンケートを繰り返し、レシピや製品規格を改良していきました。



試食会



できあがり

ステキ女子会としてオープンラボに行き、最終試作品の簡易成分分析を行いました。

また、みんなで商品パッケージのデザインを考え…色んなパターンで作ってみてアイデアを出し合い、作り上げました。

「ながとラボ」が製造者・販売者となり、令和6年2月に道の駅センザキッチンで「長州どり×長門ゆずきち」という商品名で販売開始となりました。発売初日はセンザキッチンの朝市で消費者向けの試食宣伝をステキ女子が行いました。



オープンラボで簡易成分分析



センザキッチンで消費者向け試食宣伝

○効 果

・ながとステキ女子のメンバー同士が仲良くなれました！経営品目が多様で、なかなか横のつながりがつくりにくい中、ステキ女子会で一緒に商品化という目標に向かって、意見やアイデアを出し合って進めていく中で、仲良くなることができました。

・自分たちが提案して、企画して試作を繰り返したものが商品となる、という成功体験を得ました。ステキ女子メンバーの経営としては共販出荷が多く、なかなか自分だけではできないことですが、長門の特産物を活用、というテーマでみんなですることができました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

ステキ女子会で色々なことを話すようになる内に、共通の課題があることが見えてきました。鳥インフルエンザ対策で鶏舎の周りに大量の石灰を散布する時、牛の飼料を抱える時、果樹の剪定をする時、タマネギの入ったコンテナをかかえる時…腰や肩の負担が大きい！

来年度は、アシストスーツや身体の使い方など、みんなでアイデアを出し合って試していこうと思います。

「ステキ女子マルシェ」でメンバーの個性と農産物を PR

○屋号・法人名等

○氏名 阿武萩地域ステキ女子会
(参加者数 7名) ※当日は6名

○所在地 萩市・阿武町



○取り組みのきっかけ

阿武萩地域ステキ女子会では、令和2年度以降、年に1回のペースでメンバー同士の連携活動の一つとして「ステキ女子マルシェ」を実施しています。

マルシェでの農産物の販売を通じて、消費者との交流や新規顧客の開拓に取り組んできましたが、メンバーが栽培する農畜産物を活用した料理(豚汁)をマルシェで試食提供し、これまで以上に効果的にPR活動を行いたいという意見が多数上がっていました。

そこで、令和5年度は、「萩ふるさと祭り」会場におけるマルシェ出店時に臨時飲食店営業で試食販売を行う計画を立てました。

結果として、祭り会場での試食品の調理実施は施設的に難しく、農産物の販売に絞って実践することになりましたが、ステキ女子が栽培する農産物と、それらを栽培するステキ女子自身の個性・魅力を消費者に伝えるために、「阿武萩地域ステキ女子 オリジナル豚汁レシピ」を作成して、マルシェ会場で配布を行うことにしました。

○取り組みの内容

・豚汁レシピの検討

当女子会には、様々な特技を持つメンバーが集まっていますが、今回は栄養士の資格を持つHさん、家庭科教師の経験を持つSさんを中心に、3種類の豚汁を作り、より素材の良さを引き出せるレシピを模索しました。

・デザイナーとのコラボでPRチラシを作成

令和4年度以降、当女子会の取組を応援してくださっている Cibicco Design 稲田ゆきこ氏の協力を得て、レシピとメンバーの魅力を発信できるチラシを作成しました。

・PR活動の実施

マルシェ会場で、消費者の方々へチラシを配布して活動のPRを行いました。



豚汁レシピ検討の様子



マルシェでの活動PRの様子

○効果

- ・阿武菽地域ステキ女子が栽培・飼育する農畜産物を活用した、オリジナル豚汁レシピが完成しました。
- ・併せて、消費者に広く周知するアイテムとして、豚汁レシピを掲載したPRチラシを作成しました。これには、商品のアピールポイントや、メンバーのチャームポイントの情報も掲載しました。
- ・チラシを作成する過程で、メンバー間での情報交換を行ったことで、相互理解が深まり、ステキ女子ネットワークが強固なものになりました。
- ・マルシェ会場への来場者約200名にチラシを配布しました。消費者に対して、広く農産物と阿武菽地域ステキ女子会メンバーのPRができました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・消費者に直接豚汁を提供する機会が得られなかったのは残念でしたが、レシピができたことで、念願の試食提供に向けて一歩前進できました。
- ・今後は、協力を得られる施設や環境を模索し、試食提供による消費者との交流促進を実現させる意向です。

【PRチラシ】

阿武菽地域ステキ女子

さんちの

豚汁レシピ

野菜のうまみをしっかりと感じてもらうために、手間暇かけて出汁を取り、茹水木間で手作りされている米味噌でやさしい味に仕上げました。ご家庭でもお試しください。

材料 (4人分)

豚バラ肉………200g
 人参………1本
 大根………1/4本
 サツマイモ………1/2本
 ジャガイモ………1個
 白菜………2~3枚
 長ネギ………1本
 青ネギ………適宜
 豆腐………1/2丁
 干し椎茸(スライス)………5g
 米味噌………150g
 和風だし………900ml

和風だし (1ℓ)

こんぶ………15g
 鰹節………25g

だしの取り方

鍋に5カップの水とこんぶを入れて30分以上つける。火にかけて沸騰直前にこんぶを取り出す。水1/4カップと鰹節を加える。鰹節が一度洗って、また上がってきたら火を止める。鰹節が落ち着くまで15分ほど置く。漉らしたふきんでこす。

1 干し椎茸は水で戻す(戻し汁は使います)。豚バラ肉は3cm幅に切る。人参、大根はいちょう切り、サツマイモは皮付きのまま輪切り、ジャガイモは乱切り、白菜は一口大、長ネギは2~3cmのぶつ切り、青ネギは小口切り、豆腐はさいの目切りにする。

2 鍋を熱して豚肉を炒める。軽く火が通ったらネギ以外の野菜を加えて更に炒める。

3 全体に油が回ったら和風だしと椎茸の戻し汁を加え、煮立ったらアクをすくいながら10分ほど煮る。

4 具に火が通ったら味噌を半量溶き入れて長ネギ、青ネギ、豆腐を加える。ひと煮立ちしたら残りの味噌を溶き入れる。

サツマイモに皮を残すことで、栄養満点! 色もキレイ!!

白味噌と野菜のコクがたっぷり

<p>甘い油が野菜のうまみをひきたてくれる</p> <p>小野さんちの むつみ豚</p> <p>おの あゆの 小野綾乃さん</p> <p>甘くて柔らか〜い「むつみ豚」を丁寧に飼育しながら美味しさをしっかり伝えます。</p>	<p>太陽の恵みをたっぷり受けて、甘くてやさしい</p> <p>榎谷さんちの サツマイモ</p> <p>えのまたに まよこ 榎谷啓子さん</p> <p>野菜への情熱だけでなく、お客様とのコミュニケーションも大切にしています!</p>	<p>シャキシャキした食感と瑞々しさがたまらない</p> <p>光井さん・岡崎さんちの 千石台大根</p> <p>みつひ けい 光井芽生さん 岡崎優華さん</p> <p>パワフルでフットワークが軽い! 光井さん。シフォンケーキのような優しい笑顔の岡崎さん。</p>
<p>大地の濃い味をぎゅっと閉じ込めた</p> <p>松田さんちの にんじん</p> <p>まつだ ゆきこ 松田由美子さん</p> <p>みんなの優しいお姉さん。マルチな活動でたくさんの引き出しを持っているアイデアウーマン!</p>	<p>ふかふかの畑でのびのび育ってホックホク!</p> <p>細田さんちの ジャガイモ</p> <p>ほそだ ひなな 細田仁美さん</p> <p>野菜ソムリエの知識と農士の技術でバンやケーキなど魅力的な加工品をつくっています。</p>	<p>風味豊かで香り高い! お料理の名脇役!</p> <p>鈴尾さんちの 長ネギ</p> <p>すずお 鈴尾由香さん</p> <p>阿武町で沢山の種類の野菜を作っています。農業だけでなくクラブ歌手としても活躍中!</p>
<p>鮮やかな緑は、料理に彩りを添えてくれる</p> <p>明楽さんちの 青ネギ</p> <p>あきら 明楽佳代子さん</p> <p>消費者の皆さんに安心して食べてもらえるよう、なるべく減農薬で栽培しています。</p>	<p>ビタミンたっぷり! 朝食に。食後のデザートに。</p> <p>徳永さんちの キウイ</p> <p>とくなが ひろみ 徳永加菜恵さん</p> <p>キウイを育てて45年。1つ1つのキウイに目が届く規模で1つ1つ丁寧に愛情を持って育てています。</p>	<p>阿武菽地域ステキ女子</p> <p>阿武菽地域では、若手女性農林漁業者を対象に、楽しさや悩み等の思いを共感し、ともに学ぶ場として「ステキ女子会」を開催しています。</p> <p>新メンバー募集中!</p> <p>阿武菽地域ステキ女子会 山口県農林水産事務所農産部 (0838-22-0158)</p>

下関・阿武萩地域合同農林漁業女子会で新たな出会い、新たな学び

- 氏名 阿武萩地域ステキ女子会
(参加者数 8名)
- 所在地 萩市・阿武町



○取り組みのきっかけ

阿武萩地域ステキ女子会では、個々の経営力強化とネットワークの拡大を目指して研修会を開催しています。

今年度は、「やまぐち農林漁業ステキ女子」にも登録され、我が家の経営改善から地域活動への参画まで、幅広い取組を展開されている下関市 野村みゆきさんを訪問したいとの要望が上がりましたので、希望者を募り視察研修を開催しました。

○取り組みの内容

(1)野村農園の取組視察

- ・農園の概要や取組についてご紹介いただきました。



野村夫妻

○夫婦での役割分担について

○夫婦で同じセミナーを受講するメリットについて

○働きやすい環境づくりについて

ご夫婦で話し合いながら、二人三脚で営農されている様子を学ぶことができました。

(2)下関地域農林漁業女子との交流

- ・野村農園で栽培された花(トルコキキョウ)や、地域の自然から採取したツタや木の実を使って、野村みゆきさんの指導をいただきながらリースづくりを行いました。
- ・下関地域ステキ女子会との合同研修会としたため、普段合う機会のない農山漁村女性と和気藹々とした雰囲気の中で作業を進めることができ、会話もはずみました。
- ・リースづくり後の意見交換では、「どうやってパート従業員を募集しているか？」をテーマに意見交換が行われました。それぞれから雇用に関する経験談や問題点等が紹介され、今後の募集活動の参考になりました。



リースづくり体験の様子

○効 果

- ・夫婦で話し合い、協力しながら営農されている様子や、そこで役割を持って経営参画されているみゆきさんの話を伺うことで、参加者それぞれが、家庭や組織での自らの立ち位置を見つめなおすきっかけになりました。
- ・悩みながらも日々努力している農業女子の姿を見て、前向きにチャレンジする気持ちが奮起されました。
- ・家族以外の人や、同世代の女性と話をする機会が少ないメンバーにとって、地域内外の若手女性農林漁業者と話し、気分転換する機会になりました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

後日実施したアンケートで、夫婦で積極的にコミュニケーションをとることや、お互いを尊重することが大切だと感じられたという回答が多数寄せられました。

また、他のメンバーとの交流を通じて刺激を受け、前向きな気持ちになったメンバーもいます。

今後も同様の機会を設けて経営参画・改善活動の実施に向けたモチベーション向上を図っていきます。